

第2回千歳市商業振興懇話会 開催結果

日 時 平成27年7月21日（火）午後1時30分から午後3時40分

場 所 千歳市社会福祉協議会 2階 会議室

出席者 委員15名、事務局ほか9名

議題等 1 現行プランの取組状況について
2 商業振興に関する市民アンケート調査結果報告について
3 その他

結 果 1、2、3の議事経過の要旨は次のとおり。

1 現行プランの取組状況について

次のような意見があった。

- ・千歳市は、「北海道で一番若いまち」といわれているが、千歳のまちなかの高齢化率は進んでいる。
- ・中心市街地の人口に大きな変化はないとのことであるが、実感としてその認識に違和感がある。

2 商業振興に関する市民アンケート調査結果報告について

次のような意見があった。

○買い物先としての中心市街地について

- ・買い物先として、「自分の身近な場所で買う」という回答が多いことから、市民は買い物環境に不便を感じていないという結果が出ている。中心市街地に求められていることは、娯楽や憩いの場であると思われるが、アンケート結果からは、商店側と消費者側の意識の違いが感じられる。
- ・自由記載の中で、中心市街地以外の商環境については、その利便性に関する問題を指摘する個別意見があることから、懇話会の中で議論していく必要がある。

○千歳市の特産品について

- ・管内一の生産額がある農産物について、千歳市民は他市町村から買いに来る人と比較して認知度が低いように感じられる。
- ・「千歳の産品」について、商業、観光、農業、工業の各分野における定義が異なっていると考えられることから、ある程度統一化し、産業の枠を超えて「千歳産」を周知していく必要がある。
- ・農産物については、遠隔地まで自動車を使って行かなければ、鮮度の良いものを買うことができないという問題を抱えている。

○商店街について

- ・商店街のイメージについて、旧軽井沢や東京の巣鴨など、知名度のある商店街をモデルに活性化を考えるのか、そうでないのかが見えてこない。北新商店街とインディアン水車通商店街を例にとっても、仲の橋通り商店街とは役割や存在意義が異なると

考える。

- ・にぎわい作りや商業の振興、特産品の創出等においては、市民目線や来訪者目線等異なる視点や論点で議論する必要がある。
- ・商店街に対する考え方について、消費者と商店主側とにミスマッチがあると考ええる。
- ・商店は、人が住んでない場所に出店してもビジネスとして成り立たないという事情がある。住宅が無く、人が住んでないところで商売をやるというわけにはいかない。
- ・岩見沢市の事例では、駅前の空きビルに福祉関連の機能を集積させ、さらに建物の中に遊具を設置した無料の遊び場がある。車がない方も来場できるバス停近くにある空き施設については、このような活用の途がある。
- ・ニューサンロードは、物販を中心とする昼型の営業から、飲食を中心とする夜型の商店街にシフトしつつある。これは、多くの在庫を抱える商売の形態から、比較的少ない在庫による商いにシフトするのは当然の流れであり、商店街の一つの方向性を示していると考ええる。

○商店街における駐車場について

- ・駐車場の有無のほか、バリアフリーに対応しているかなど、他に考慮すべき問題がある。商店主や商店街の問題としてとらえるのではなく、何らかの支援が必要である。
- ・自前で駐車場を確保している個店もあるが、立地場所や敷地により、駐車場の確保が難しい事情もある。公共地下駐車場を敬遠する人が多いと聞くが、逆に、広くて利用しやすいという意見もある。

3 その他

事務局から、分科会の設置及び委員構成について懇話会に諮り、分科会の設置等を決定した。分科会の構成は、商業者、消費者、その他（専門的見地）の3つとなった。